

## 170 オリーブ山での説教(6)

マタイによる福音書 25 : 1~13、31~46

……前回に続き、ニサンの月の12日(火曜日)の出来事である……

——大苦難(患難)時代を生き延びた人たちについて(キリスト信者は既に携挙され、天に上げられている)

▶「十人のおとめ」のたとえ (マタイによる福音書 25 : 1~13)

01 「そこで、天の国は次のようにたとえられる。十人のおとめがそれぞれともし火 (→聖書の象徴) を持って、花婿を迎えに出て行く。

02 そのうちの五人 (→未信者) は愚かで、五人 (→信者) は賢かった。

03 愚かなおとめたちは、ともし火は持っていたが、油 (→聖霊の象徴) の用意をしていなかった。

04 賢いおとめたちは、それぞれのともし火と一緒に、壺に油を入れて持っていた (→救われていた)。

→当時のユダヤでは花嫁の父と花婿の父が合意(婚約)し、花婿の父が花嫁の父に花嫁料を支払います(結婚式まで、最低1年の婚約期間をおく)。そして、当時の婚礼の慣習では、婚礼の日に花婿は花嫁の実家まで花嫁を迎えに出向き、花嫁のために整えられた家に花嫁を連れて帰ります。おとめたちや招待客は花婿の実家で、いつ帰って来るか分からない二人を待ち(いつ帰って来るか、何時に戻って来るか分からない二人を待っている間、灯されるランプが油切れで消えてしまわないように、おとめたちの中には周到に予備の油を用意する者もあった)、二人が到着すると祝宴が始められました。

父なる神も、花嫁(教会)のために、御子の贖いの血によって花嫁料を支払われました。イエスは花嫁(教会)を出迎えに行き、父なる神がおられる天へと連れ帰られ(携挙)、婚姻が執り行われます。そして、イエスの再臨後、教会の婚宴がメシア的王国で催されます。

→ヨハネによる福音書 14 : 3 (イエスの携挙の預言)

行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える(携挙)。

こうして、わたしのいる所(→天)に、あなたがたもいることになる。

→ヨハネの黙示録 19 : 6~8

わたしはまた、大群衆の声のようなもの、多くの水のとどろきや、激しい雷のようなものが、こう言うのを聞いた。「ハレルヤ、／全能者であり、／わたしたちの神である主が王となられた。わたしたちは喜び、大いに喜び、／神の栄光をたたえよう。小羊の婚礼の日が来て、／花嫁は用意を整えた。花嫁は、輝く清い麻の衣を着せられた。この麻の衣とは、／聖なる者たちの正しい行いである。」

05 ところが、花婿の来るのが遅れたので、皆眠気がさして眠り込んでしまった。

06 真夜中に『花婿だ。迎えに出なさい』と叫ぶ声がした。

07 そこで、おとめたちは皆起きて、それぞれのともし火を整えた。

08 愚かなおとめたちは、賢いおとめたちに言った。『油を分けてください。わたしたちのともし火は消えそうです。』

09 賢いおとめたちは答えた。『分けてあげるほどはありません。それより、店に行って、自分の分を買って来なさい。』

10 愚かなおとめたちが(油を) 買いに行っている間に、花婿が到着(→再臨)して、用意のできている (→救われている) 五人は、花婿と一緒に婚宴の席に入り、戸が閉められた。

11 その後で、(愚かな) ほかのおとめたちも来て、『御主人様、御主人様、開けてください』と言った。

12 しかし主人は、『はっきり言うておく。わたしはお前たちを知らない』と答えた。

13 だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。』

▶すべての民族を裁く（マタイによる福音書 25：31～46）

31「人の子（→イエス・キリスト）は、栄光に輝いて天使たちを皆従えて来る（再臨の）とき、その栄光の座に着く。

32 そして、すべての国の民（→大苦難[患難]時代を生き延びた、すべての異邦人）がその前に集められると、羊飼いが（一日の終わりに群れの数数を数えて、）

（心が柔軟でへりくだっている）羊と（心が猛々しい）山羊を分けるように、彼らをより分け、

33 羊（→親ユダヤの異邦人）を右に、山羊（→反ユダヤの異邦人）を左に置く。



→ヨエル書 4：1（キドロン谷で行われる、再臨後に起こる異邦人の裁きについての預言）

見よ、ユダとエルサレムの繁栄を回復するその日、その時。わたしは諸国の民を皆集め／ヨシャファト（主の裁き）の谷（＝キドロン谷）に連れて行き／そこで、わたしは彼らを裁く。わたしの民、わたしの所有であるイスラエルを／彼らは諸国の民の中に散らし／わたしの土地を自分たちの間に分配したからだ。彼らはわたしの民の運命をくじで定め／遊女を買うために少年を売り渡し／酒を買うために少女を売った。

→ヨシャファトの谷 the Valley of Jehoshaphat  
＝キドロン谷：ユダ王国初期の王ヤシャファトにちなんで名付けられた（ヨエル 4：2、列王上 22：41～50）。



34 そこで、王は右側にいる人（→イエスが、「羊」とした、親ユダヤの正しい異邦人）たちに言う。

『さあ、わたし（→イエス・キリスト）の父に祝福された人たち、天地創造の時からお前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい。35 お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、36 裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。』

37 すると、正しい人たち（→イエスが、「羊」とした、親ユダヤの正しい異邦人）が王に答える。

『主よ、いつわたしたちは、飢えておられるのを見て食べ物を差し上げ、のどが渇いておられるのを見て飲み物を差し上げたでしょうか。 38 いつ、旅をしておられるのを見てお宿を貸し、裸でおられるのを見てお着せしたでしょうか。 39 いつ、病気をなさったり、牢におられたりするのを見て、お訪ねしたでしょうか。』

40 そこで、王は答える。

『はっきり言うておく。わたしの兄弟（→ユダヤ人）であるこの最も小さい者の一人（であるユダヤ人）にしたのは、わたし（→イエス・キリスト）にしてくれたことなのである。』

→（聖書協会共同訳）『よく言うておく。この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである。』

41 **それから、王は左側にいる人たち**（→イエスが、「山羊」とした、反ユダヤの異邦人たち）にも言う。

『**呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。**

42 お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせず、のどが渴いたときに飲ませず、43 旅をしていたときに宿を貸さず、裸のときに着せず、病気のとき、牢にいたときに、訪ねてくれなかったからだ。』

→王の左側にいる人たちは、反キリストに従い、ユダヤ人迫害（抹殺計画）に参加した。彼らは、メシア的王国から除外され、燃える火の池に投げ込まれる。

→聖書に登場する「永遠の火」を含む聖句

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 3 / 聖句等の総数 33250 <永遠の火>3個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: 永遠の火]
S マタイによる福音書	18:8 もし片方の手か足があなたをつまずかせるなら、それを切って捨ててしまいなさい。両手両足がそろったまま永遠の火に投げ込まれるよりは、片手片足になっても命にあずかる方がよい。	
S マタイによる福音書	25:41 それから、王は左側にいる人たちにも言う。『呪われた者ども、わたしから離れ去り、悪魔とその手下のために用意してある永遠の火に入れ。』	
S ユダの手紙	1:7 ソドムやゴモラ、またその周辺の町は、この天使たちと同じく、みだらな行いにふけり、不自然な肉の欲の満足を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受け、見せしめにされています。	

44 **すると、彼らも答える。**

『**主よ、いつわたしたちは、あなたが飢えたり、渴いたり、旅をしたり、裸であったり、病気であったり、牢におられたりするのを見て、お世話をしなかったでしょうか。』**

45 **そこで、王は答える。『はっきり言うておく。この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。』**

わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである(40節)。

この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである(45節)。

世の中には、心ならずも弱い立場、弱い状況にあり、苦しんでいる人たちがいます。

私たちはそのような人たちに気付いていても自分の生活を優先したり、忙しさを口実にそのままに見過ごしてしまうことが本当によくあります。

そのような立場にある人たちにしなかったことは、主イエス・キリストに対してもしなかったことと同じことなのです。

46 **こうして、この者どもは永遠の罰を受け、正しい人たちは永遠の命にあずかるのである。』**

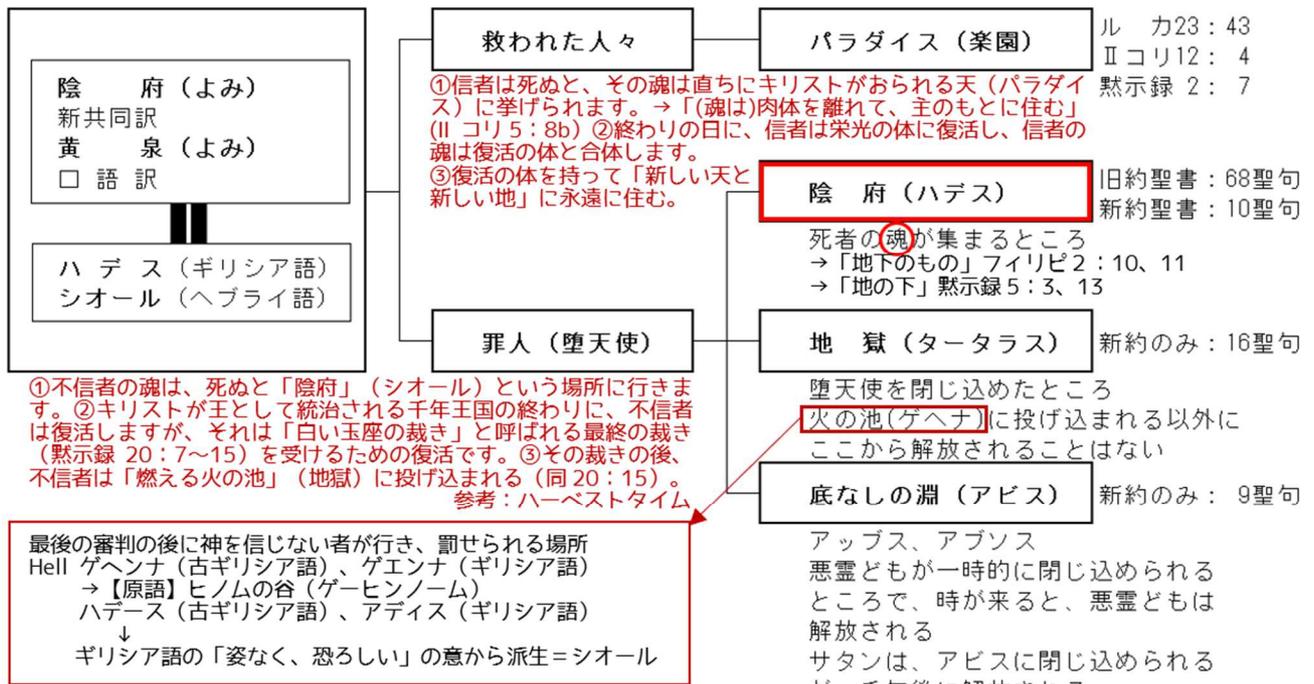
【一言】而今(にこん、じこん)



鎌倉時代初期、曹洞宗の開祖である道元禅師の唱えた禅語で、「ただ、今、この一瞬」という意味です。

時は刻々と過ぎていき、「今という瞬間」は二度と戻ってはきません。だから、その一瞬一瞬を大切に生きていく、「過去」や「未来」をあれこれ思い悩むのではなく、今を一所懸命生きるという意味です。

**【参考】 陰府、火の池等**



ペトロの手紙二2:9

主は、信仰のあついで人を試練から救い出す一方、**正しくない者たちを罰し**、裁きの日まで閉じ込めておくべきだと考えておられます。

**【参考】 羊と山羊**

▶**羊**

ウシ科ヤギ亜科のヒツジ属で、山羊と違い、草以外の食べ物を消化することができない。

一般的には、毛がもこもこ生えているのが特徴である。角はぐるぐると渦を巻いて伸びており、尻尾は長く下向き、あごひげはない。

性格は、温厚でおとなしい・臆病などといわれ、山羊と正反対である。

羊の毛は、保湿性と保温性に優れているため、多くに利用されている。

▶**山羊**

ウシ科ヤギ亜科のヤギ属に属し、草以外にも木の葉っぱや木の芽を好んで食べる。

特徴として、角は少し湾曲して後ろに伸びており、尻尾は短く上向き、あごひげが生えている。

性格は好奇心が旺盛・活発・自己中心的・攻撃的などといわれており、安易に近づくと危険な動物でもある。山羊のチーズやミルクは芳醇な風味があり、牛乳よりも消化性に優れていると言われている。

▶聖書では、羊はよく神の民を象徴し、山羊は悪人を象徴している(ダニエル書8:5~8)。

羊飼いたちは、山羊と羊の性質をうまく利用して、羊の群れにリーダーとして山羊を混ぜ、人間が山羊をコントロールすることで、群れ全体のコントロールを容易にするという飼育をしている。昼間は羊も山羊も同じように過ごしているのである。

羊飼いたちは、羊を放牧する際、山羊も一緒に放牧し、夕方になると、羊と山羊を分けて、小屋に入れ休ませるのである。

しかし、羊と山羊の違いが明らかにされるのは、イエス・キリストの再臨の時であることを忘れてはいけない。